

株式会社TACSしべちゃ 牛舎新築落成記念式典開催

営業統括室 嶋田 和睦

平成27年3月23日（月）において、標茶町農業協同組合、標茶町、雪印種苗株式会社の3者共同で立ち上げた農業生産法人「株式会社TACSしべちゃ（以下、TACSしべちゃ）」の牛舎新築落成記念式典が、高取剛TACSしべちゃ代表取締役社長（標茶町農業協同組合代表理事組合長）、龍前直紀TACSしべちゃ取締役場長（雪印種苗株式会社）、相座誠TACSしべちゃ取締役副場長（標茶町農業協同組合）をはじめ、酪農乳業関係者の130名が集まり、牛舎完成を盛大に祝いました。

標茶町は北海道釧路市から北へ約50キロメートル離



テープカット



落成式典

れた緑豊かな町であり、牧草地面積約27,000ヘクタールを有し、広大な大地に約39,000頭の乳牛飼養する道内屈指の酪農地帯であります。夏場は30℃を超す事もありますが比較的冷涼で過ごし易く、冬場は降雪こそ少ないので、マイナス20℃を超すことがしばしばあります。四季の区別がはっきりしております。また空気が澄んでいるため星空がとても奇麗な町であります。総人口約8,000人、観光では塘路湖を中心にトロッコ列車「くしろ湿原ノロッコ号」の運転やカヌー体験、冬季は蒸気機関車「湿原号」が釧路駅－標茶駅間で運転されています。主要産業は酪農で雪印メグミルク磧分内工場（バター製造）がある、全国有数の生乳生産量を誇る町であります。

その地で「TACSしべちゃ」は「北海道が有する広大な草地を活かし、本来あるべき自給飼料を中心とした草地型酪農の模範となる農業生産法人として、低コスト型の経営を目指すと共に実践内容を積極的に地域に普及させること」を目的とし、平成25年11月に設立されました。

「TACSしべちゃ」の目的と期待するところについて



高取剛TACSしべちゃ代表取締役社長
(標茶町農業協同組合代表理事組合長)

て、高取剛標茶町農業協同組合代表理事組合長は「離農者が増え続けている中で遊休農地を作つてはならないという大きな目標、それとやはり我々は生産者であるので食料生産基地としての責任を果たしていかなければならない。標茶町や道東地域は、草地酪農で酪農を発展する土地柄であることから、草地酪農に関して素晴らしい技術や知識や経験を持っている雪印種苗様に参画していただきたい話をし、このような取り組みになった。草地型酪農で標茶町だけでなく根釧地方あるいは北海道のモデルになれるよう期待している。町には担い手育成という大きな目的のために力を借りたい。」池田裕二標茶町長は「人口減少が全国各地で非常に大きな問題になっている。それぞれの町でも同様だが、どのように町を維持していくのか。標茶町はやはり基盤を考えた場合に基幹産業である酪農を中心に農業、林業、水産業の第一次産業を維持していくことが一番大事だと思っている。生産量をどのように維持していくのかということを農協と一緒に取り組んできたが、やはり離農の進展が止まらないという中、多様な経営を維持してもらうことが非常に大事だと思っている」



池田裕二標茶町長



川成眞美雪印種苗株式会社代表取締役社長

る。今回参画いただいた雪印種苗様には特に草地酪農に関して最も技術や知識や経験を蓄積されている方なので、標茶町というフィールドで果敢に挑戦していただき、色々な提案をしていただきたいと考えている。また、閉校跡地（旧中御卒別小学校）について“TACSしへちゃ”に指定管理者としてこの施設を受け入れていただき、研修施設として有効活用を図っていただきたいと考えている。このような狙いがあって、標茶町としてはこれからも基幹産業である酪農を維持していく一つの手段として、参画していただいたという事である。」川成眞美雪印種苗株式会社代表取締役社長は「私どもは前身時代を含め、約80年以上牧草の研究を行っている。牧草地の雑草化について問題点を提起させていただいており、北海道自給飼料改善協議会、北海道連携協定等の活動を通し、牧草の大切さを伝えてきている。牧草の改良技術の開発と何よりも地域に適した植生というのはどのようなものなのかを研究し続けてきた中、参画の話をいただいた。自給飼料の更なる品質の向上、草地更新技術の普及などを“TACSしへちゃ”から発信できるということである。」

龍前直紀TACSしへちゃ取締役場長は「道東地域は牧草を中心に牛を飼っていく地域である。酪農を営農していくための基本である土、栄養価が高く収量の多い草地に改良していくことにより購入飼料を少しでも減らして、本来あるべき自給飼料を中心とした基本的な酪農が継続できる基盤を作つていただきたい。生き物が相手なのでストレスをかけないように徐々に牛の能力を出していければと思う。牛だけでは無く土、草など自然が相手なので1～2年での改良はなかなか難しい。長いスパンをかけて、じっくり改良をしていき、少しづつ成果を出していただきたい。また、担い手育成で



龍前直紀TACSしへちゃ取締役場長



株式会社TACSしへちゃ 牛舎



標茶町農業研修センター しへちゃ農楽校
※旧中御卒別（ナカオソツベツ）小学校

も協力して行きたい。TPP交渉の対応等、産業的には厳しく明るい話題が無い中ではあるが、若者に酪農の楽しさを伝えて、そのまま地域に残り、上手くコミュニティーを作りていければと思う。」と意気込みを表しました。

日々進歩する酪農は、まだまだ発展の可能性や魅力を秘めている奥が深く素晴らしい一次産業であります。「TACSしへちゃ」の使命はその可能性を探究し、農業への夢や希望を提供できる企業を目指すことあります。

会社概要

社名：株式会社TACS（たっくす）しへちゃ

平成25年11月25日設立

社名の由来

Town（標茶町）

Agricultural **C**ooperative（標茶町農協）

Snow **B**rand **S**eed（雪印種苗）

役員構成

| | |
|---------|-------|
| 代表取締役社長 | 高取 剛 |
| 取締役場長 | 龍前 直紀 |
| 取締役副場長 | 相座 誠 |
| 監査役 | 東海林一行 |

資本金 9,500万円

出資割合

標茶町農業協同組合51%、雪印種苗株式会社39%、
標茶町9.9%、その他0.1%

事業概要

飼養頭数 成牛約300頭および育成牛200頭

自給飼料面積 約200haで牧草とデントコーンを栽培

出荷乳量 年間出荷乳量約2,400トン以上を目標
担い手の育成

旧中御卒別（ナカオソツベツ）小学校及び教員住宅の活用。

標茶町はH26年3月末に閉校となった当校を改修して、新規就農を目指す酪農研修生の宿泊施設（単身・家族）や座学研修施設として整備した。これにより地域酪農家やTACSしへちゃで経験を積む酪農研修生の受け入れを行っていく。

リンク情報

・ TACSしへちゃ

<http://www.tacs-shibecha.com>

・ 標茶町農業協同組合

<http://www.sip.jp/~ja-shibecya/>

・ 雪印種苗株式会社

<http://www.snowseed.co.jp/>

・ 標茶町役場

<http://www.town.shibecha.hokkaido.jp/yakuba/>